はじめに——桃山百双の世界 i

第Ⅰ章＊転換期としての一六世紀 1

1——転換期の諸相 2

2——時期設定 6

3——対象と視点 13

第Ⅱ章＊絵画鑑賞の場の成立 17

1——会所の独立 22

2——会所を飾る唐物 28

3——床の間の飾りと同朋衆 33

4——擬似唐物としての襖絵——「筆様」制作 40

5——擬似唐物からの脱却 54

6——屏風絵の鑑賞　61

第Ⅲ章＊新しい画家像としての狩野派　67

1——狩野正信の登場　69

2——狩野元信と「和漢の融合」　78

3——狩野元信と共同制作システム　94

4——狩野永徳と以降の展開　97

第Ⅳ章＊絵画制作の新たな場——町物と奈良絵　107

1——扇絵の需要　109

2——上品と下品　117

3——お伽草子と奈良絵本　128

4——町物の発展　133

第V章＊中国主題の受容とその和様化 137
1—耕作図 140
2—狩猟図 145
3—瀟湘八景図 151
4—帝鑑図 157
第VI章＊風俗画の成立 165
1—風俗画前史—風俗表現の描写 168
2—縁起絵巻と参詣曼荼羅の風俗的要素 173
3—酒飯論絵巻 183
4—洛中洛外図の成立 189
5—近世初期風俗画の展開 197
6—特定事象の絵画化—権力者の絵画利用

第Ⅶ章＊一六世紀における和歌と絵画 219
1——「扇の草子」とは？ 222
2——新しい歌絵の誕生 226
3——和歌と「モノ」 233
4——「モノ」を描く絵画 243
5——「モノ」の巨大化——和歌からの自立 250
おわりに 262
あとがき 270